

星々の下で

山谷えり子



モンゴル・日本文化交流四十周年記念事業として、八月下旬、モンゴルで「蒼天と太陽の絆」書道展をおこなってきた。

モンゴル文字のルーツはエジプトの象形文字といはれ、十三世紀初頭、モンゴル帝国を建国したチンギス・ハーンがウイグル人から文字の存在を知り、広めたのが始まりといはれてゐる。

書道展の出品者は、モンゴル側がツァヒヤ・エルベグドルジ大統領、ノロブ・アルタンホヤグ首相、外相、教育相、書道家、詩人など五十人で、日本側からは安倍晋三総理をはじめとする与野党国会議員、女性書道家ら四十三品が出品された。モンゴル大統領は「馬上の人」、安倍総理は「楽在人和」を揮毫し、私は故郷福井の歌人、橘曙覧の「たのしみは朝起きいでて昨日まで無かりし花の咲ける見る時」を掛軸にして出品したが、モンゴル書道は日本書道の止め、撥ね、流れ、と感性を同じくし、優雅さや力強さに共通性があり興味がつきなかった。

モンゴルは、清朝支配下の時代、社会主義の時代を経て、一九九〇年に初めて複数政党制を採用した選挙がおこなはれ、経済も動き始めてゐる。とくに第二次安倍内閣になってからは総理をはじめとするハイレベル交流が活潑化し、現在、戦略的パートナーシップ強

化のもと、七月には経済連携協定(EPA)が大筋合意され、ビジネス環境の整備や人材育成プログラムが進んでゐる。

書道展の開会式のと、国会議員たちと交流を深め、日本の教科書とカリキュラムを取り入れてゐるといふ新モンゴル高等学校で桜を植樹した。日本語は必修で、「日本に留学したい」と、授業参観時に生徒全員が手を挙げたのには驚いた。座禅の時間もあり、クラブ活動では馬頭琴部、胡弓部、民族舞踊部など、伝統継承に力を入れてゐることに感銘を深くした。

さらにモンゴルの家庭教育が、家事や家畜の病気を治したり、気象状況を見る生活教育や民謡、口承文芸などを伝へ、テレビもかうした番組を放映してゐることに頼もしさを感じた。宗教的情操心は、日本と共通する点が多く、人々は山や川には神が住むと考へ、「天」を意識し、自然との共生の感覚がすぐれてゐる。一方で、チンギス・ハーンの子孫といふ誇りと、厳しい自然の中で育まれた忍耐力も抜きんでてをり、これがモンゴル力士の強さに繋がってゐるのではないかといふ人もゐる。

一昨年の夏は、尖閣諸島海上から星を仰ぎ、昨年はヒマラヤのふもととブータンで、そしてこの夏はモンゴル草原で星々に世界平和と万民豊樂の祈りを捧げた。「星は一百度以上では青白色に、四千度以下では赤色に輝きます。捧げた祈りは契約ですから星は忘れません。だから皆さんも忘れないやうに。さうすれば祈りは叶ひます」。小学生時代の恩師の言葉が思ひ出された。

(参議院議員、神道政治連盟国会議員懇談会副幹事長)

杜
に
想
ふ